展示室の方の話

町には，たくさんの焼き物工場があります。その始まりは，今から３６０年ほど前のことです。会津のとの様につれてこられた職人が，ここで焼き物にてきした土をたくさん発見し，かまをつくって陶器づくりをしたことによります。そして２００年前から，磁器もつくられ始めました。

陶器

原料が陶土という土なので，土ものともいわれます。

磁器

原料が陶石という石なので，石ものともいわれます。

本郷地区には，焼き物をつくるための原料になる土だけではなく，作品を焼くかまをつくるねん土やうわぐすりの原料もたくさんありました。また，焼き物を焼くための燃料となるアカマツもたくさんありました。

「焼き物は，どのようにつくられているのかな。」

「できあがりまでどれぐらいの時間がかかるのかな。」

みんなは，かま元をたずねて，会津本郷焼がつくられる様子を見学してきました。

土をさらす　ほり出した土をつみあげ，１年以上天日にさらします。

土をねる　土をくだき，あらいものをとりのぞき，水をくわえてねります。

形をつくる　ろくろや手びねりで作品の形をつくっていきます。

会津本郷焼はどのようにつくられているのでしょう。

会津本郷焼ができるまで

かま元をたずねて見学した作業の様子をまとめてみました。

焼き物をつくっている宗像さんの話

焼き物は，焼き上がって実際にかまから出して見るまで，どのように色がついているかわかりません。ですから，取り出すときがとても楽しみです。しかし，自分で本当に満足のいく作品は年に数個しかできません。失敗したものは，こわしたりせず，次の作品の成功に役立てるための反省材料となります。これからも苦労に苦労を重ね，人にまねできないようないい作品を作りたいと思っています。そして，多くの人が会津本郷焼に親しんでくれることを願っています。